

# 元気塾 報告書

\\ まちの課題解決に取り組んだ、私たちの報告書 //

心地よい暮らしづくり  
“楽”校

～暮らしやすいまちを創る～

太宰府市

ふくつ姉妹。

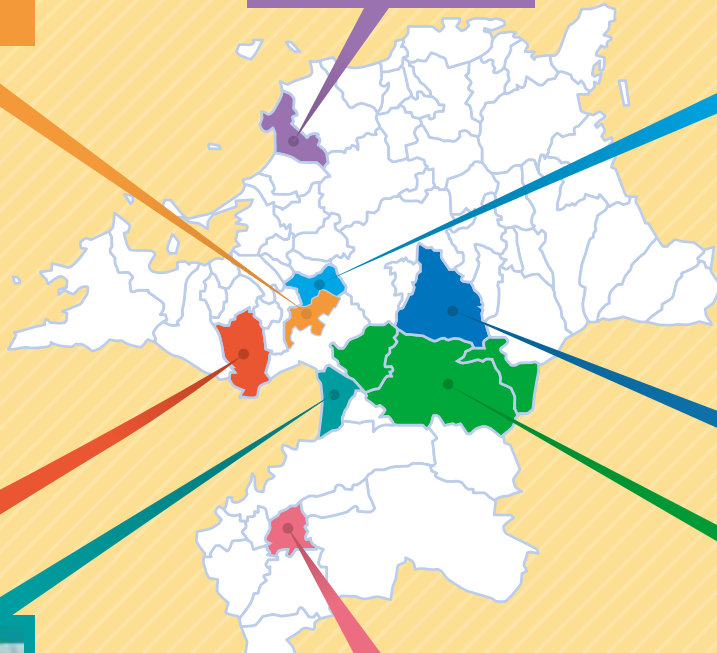
福津市

うみ☆ガールズ塾

宇美町

那珂川 -ichi- つくります!

那珂川市



私の防災準備講座

嘉麻市

スマホアプリを動画でつくる!

小郡市

私、ななこく女子。

筑後市

防災!命を守る防災力講座

朝倉市・筑前町・東峰村

# ナナジョが輝く ナナジョがつながる 私、ななこく女子。

主催：七国女子実行委員会  
(七国女子・筑後市)

## 私たちが目指したこと

筑後七国(大川市・柳川市・筑後市・八女市・みやま市・大木町・広川町)は歴史ある文化、産業遺産が残るとても素晴らしい地域です。しかし、そこに住む人たちにもあまり知られていないのではないかという思いがありました。また、筑後七国という地域の繋がりがあがりながら、七国の女性同士の繋がりが少なく、仕事や様々な悩みを本音で相談したり、情報を共有する場所を求めている女性が多いと感じていました。

そこで私たちは、女性として、そして人としても魅力アップを図るための講座を取り入れ、たくさんの女性に興味を持ってもらえるように、ロゴやパンフレットのデザインにもこだわりました。

この講座で一番大切にしたいことは、地域と共に活動している方を中心に講師依頼をして、塾生の今後の活動に役立てる内容にしたことです。

また塾生募集時には、申し込み用紙に「地域と一緒に叶えたい夢」も書いてもらいました。



## 私たちが行ったこと、学んだこと

全7回の講座は、筑後七国協議会や地域おこし協力隊、また筑後七国で地域活動されている方などに講師をお願いしました。

初めに、筑後七国の成り立ちや各地の歴史や文化を学んだことから、七国を巡る「ナナジョツアー」を企画し、実施しました。その中で、各地域の魅力に触れながらおもてなしの心の大切さを学びました。

また、他の講座で学んだ、地域やそこに住む「人の魅力

を発見する観察力」や、「自分の想いをカタチにすること」などをおして、観光やそれぞれの仕事、地域づくりや仲間づくりも全ては相手を敬う心に繋がるということに気づきました。

そこで、塾生それぞれの職業や特技を生かした美と癒しのイベント「なないろ。」を企画、実施することになりました。その日がお雛祭りの日ということもあり、柳川市のさげもんをお借りして会場に展示し、お客さまに楽しんでいただけるようにと、塾生の中から「なないろ。実行委員会」が立ち上がり、何度も打ち合わせを重ねる中で、実行委員と塾生の絆も深まっていきました。イベントは大盛況に終わり、お客さまの「楽しかった」という言葉が何よりの成果だったと思います。

講座の最後の発表会では、官民共同のワークショップを行い、地域の課題やそれぞれの夢について、行政の方々とお互いの立場で出来ることを話し合えるいい機会になりました。

## 成果と今後について

地域の魅力発信も夢を叶える事も、まだまだ始まったばかりのななこく女子ですが、この講座ではたくさんの学びと、本音で語り合える大切な仲間に出会えました。そして、「私、ななこく女子です」と胸を張って言える自信を得ることが出来ました。

今後の活動としては、美と癒しのイベント「なないろ。」を開催したことから、様々なコラボレーション企画も生まれており、たくさんのご縁も生まれ、七国各地でのイベント等にお声掛けもいただいております。ナナジョのテーマでもある、地域と一緒にそれぞれの夢を叶えるために、これから一步一步進んでいきたいと思っております。



# スマホアプリで動画をつくる!

主催: “おごおりチャンネル” 実行委員会  
(CORAL・小郡市)

## 私たちが目指したこと

この講座の目的は、地方で暮らす人が活躍するために、ITスキルを習得することにあります。地域や団体の活動においても時間や場所を選ばず活躍の場を広げるにはITを使えるようになることがこれから重要となってきます。

しかし「ITスキルを身に着けましょう!」と企画するとハードルが高いと感じてしまいます。事前アンケートではスマホを持っている人は9割、使いこなしたいと思っている人は8割を超えていました。また小郡市は「インターネット上に情報が少ない」という課題があります。そこで小郡市の情報動画をスマホだけで作ろうということになりました。

動画をチームで制作することで、自然にITスキルを身に付けることができます。Slack、Zoom、Googleドライブは、実際に企業やリモートワークでも使われているツールです。これらをチーム全員が使うことにより、遠隔地にいても膨大な量の情報を共有し、役割分担が可能となります。



小郡市内を巡る撮影バスツアー

## 私たちが行ったこと

チラシはターゲットである30代子育て世代の女性が「参加したいな」と思える内容にブラッシュアップ、幼稚園・保育園に配布しました。PR動画を作成しSNSで発信して市外にも広報しました。講座の会場はWifiの使える3か所のコミュニティセンターを使用。実行委員会でもGoogleドキュメントでリアルタイムに書類を共有、ペーパーレスで運営しました。

6回の講座の他にフォローアップを企画しました。お茶会では復習会を行い、Webミーティングでは講師とZoomを使用して遠隔講座を体験。「小郡市内を巡る撮影バス

ツアー」では講師に撮影テクニックを学びながら、小郡の知られていないスポットを巡りました。

動画は1人で1本作る、というスタイルではなく分業・分担しました。そうすることによってチャットツールでコミュニケーションを取り、ドライブでデータを共有する方法を自然と身に着けることができました。市外の方と協働で制作した事で、小郡在住の受講生も小郡の魅力を再発見することができました。

## 成果と今後について

2019年3月10日時点で動画本数48本、視聴回数7,600回の「おごおりチャンネル」という成果物が出来ました。発表会の反響も大きく、西日本新聞・小郡市広報誌・小郡市facebookページへの掲載、動画は小郡市のケーブルテレビでも放映されました。

今後、小郡の情報発信のプラットフォームとして「おごおりチャンネル」を育てていくために、撮影会イベントなどを企画し、市内外のたくさんの方に関わっていただければと考えています。受講生の方々には、それぞれの仕事や活動でITスキルを活用してもらいたいので、そのサポートができればと考えています。「おごおりチャンネル」は無数の可能性を秘めたコンテンツです。「おごおりチャンネル」のような情報発信のプラットフォームが、他の地域でも増えてほしいと願っています。



動画はこちらから  
ご覧になれます。  
チャンネル登録をして  
応援をお願いします!



# 心地よい暮らしづくり“楽”校

主催：すきsuki♥おはなし会実行委員会

(すきsuki♥おはなし会・太宰府市・太宰府市男女共同参画推進センター「ルミナス」)

## 私たちが目指したこと

太宰府市の実行委員会は、若い世代が「わたしのため、大切な人のために小さなことから一歩を踏み出し、やりたいことをみつけて私が地域のタネになる!」をテーマに講座づくりを目指しました。

実行委員会の構成員である「すきsuki♥おはなし会」は、地域の話し合いや決定の場に若い世代がいない現状を変えていきたいと立ち上がった市民団体です。元気塾の講座を作る際にはこの思いがベースとなりました。

若い世代が地域で活躍するには、自ら気づき考えて行動できると、自分にあったライフスタイルで、地域参加やリーダーシップを発揮していくことに繋がると考えました。

塾生が一歩を踏み出せるように「考える」「気づく」「伝える」「行動を起こす」力を講座の中で育めるよう意識をしました。



## 私たちが行ったこと

第1回講座では、若い世代は無力じゃない、ひとりひとりが大切な存在であることや、身近な生活に政治は関わっていること、若い人と女性が地域とつながるためにできることを学びました。第2回講座では、タネを植えるためのスキルアップ講座として、自分自身のことを知り、コミュニケーションのコツを学ぶ講座を行いました。第3回講座では、行動を起こした3名の講師を迎え、やりたいことをどのように始めたのか、周りを巻き込むコツ等を伺いました。第4、5回講座では、自分が考えている地域課題が似ている人でグループを作り、意見を整理し問題を抽出

する方法や、アイデアを出す方法を学びました。「誰か」ではなく「私が」できることは何か?と思考すると、わくわくする発想が生まれ、仲間と一緒に考えるとさらにアイデアが広がることを体験しました。第6回講座では、「楽しくやってみたい、暮らしが豊かになるアイデアがここにある」と題し、一般の方の前で報告会を実施しました。



## 成果と今後について

講座のスタート時は、参加動機や目的がバラバラだった塾生が最終回の講座ではまとまり、ゴールを達成できた感触がありました。開催してみると、若い世代の人は地域に関心がないのではなく話す場が今までなかったのだということ、思いはあるけれども一歩の出し方が分からないということが見えてきました。「仲間ができて嬉しい」、「これからも縁を繋げていきたい」と塾生から声が出ており、講座後も集まり絆を深めている様子です。今後の塾生の活躍に乞うご期待!!



# 「ふくつ姉妹。」プロジェクト ～福津のまちが好きな人がつながり、何か始めよう！～

主催：郷をつくる。ふくつ姉妹。実行委員会  
(ふくつ男女共同参画協議会絵りん・福津市)

## 私たちが目指したこと

福津市には「郷づくり」という地域自治組織があります。概ね小学校区を単位とした8つの地域ごとに、自治会、各種団体、事業者等が連携しながら、地域課題の解決や、より魅力ある地域づくりにつながる活動を行っています。

この「郷づくり」の課題として、①高齢化と担い手不足②意思決定の場に女性が少ない③会議等で多様な意見が反映されにくい風土・環境が挙げられます。

一方、地域に目をむけると、福間駅東地区の開発等にもない、新しいモノやコトが増えていきます。人口も増加し続けており、以前と比べ、まちに「ワクワク感」がうまれていくように感じます。この「ワクワク感」が、人と人がつながることでもっと広がったら、さらに素敵なまちになるのでは。

そこで考えたのは、①地域で何かしたいと思っている人の発掘②現在地域活動をしている人とつなげて掛け合わせ、「福津でやりたいこと」を企画・実践③企画内容を通じて「郷づくり」等との連携です。



## 私たちが行ったこと

まず、まちづくり活動のやりがい、「郷づくり」に女性が関わることの重要性や仲間づくりの必要性について話を聴きました。そして、企画を立てるためには話し合いが必要です。その手法として、ワールドカフェやワークショップを体験したり、ホワイトボードミーティング®のやり方について学びました。そして仲間づくりや企画づくりへ。最終的

に小学生から70代までの男女が集まり、①おうちカフェ（居場所づくり）②子育て応援隊③稼ぐまちづくりという3つのグループができました。

感動したのは、参加者のみなさんの行動力です。短い期間に、リサーチや実践を重ねたり、仲間を増やしたりしながら、「やりたいこと」が「まちの課題解決にどうつながるか」を意識して企画を立案。プレゼン&マッチング大会では、市民や郷づくりの役員、市の担当部署、議員等に向けて発表を行い、そこからコラボも生まれました。

## 成果と今後について

塾生も実行委員も、常に「活動を持続可能なものにする」ことを意識してきました。7か月間の活動を通じて「お金を生み出す」視点を持ち、多様性を認めて個性を活かすことや、当事者意識を持って主体的に動くことができるようになりました。

そして今、次に向かって動き始めています。

塾生は、それぞれのグループで、次年度の事業計画を立てたり、他団体と連携したり、視察の依頼が入ったところも。個人としては、想いを形にすべく、自分の企画を実現しようと奔走したり、プチ起業の準備をしている人もいます。

「ふくつ姉妹。」は、名称を「ふくつながり」に改めて、もっとたくさんの人と人をつなげることで、さらに福津市を元気にしていきます。



主催:「みんな(男女)でできる防災」実行委員会  
(かま男女共同参画推進ネットワーク・行政区長・嘉麻市)

## 私たちが目指したこと

広範囲の山々を持つ緑豊かな少子高齢化が急速に進むまち、嘉麻市は、高齢化率40%が目前です。

一昨年の7月、山境の朝倉、小石原を襲った九州北部豪雨は、私たちに「<sup>ひとごと</sup>他人事ではない、いつかくる!自然災害」を身をもって教えてくれる甚大な災害でした。

行政の力には限界があることは、過去の災害の教訓からもいえることです。そこで自分に何ができるか、自分たちで準備しておくことは何か、仲間とだったら何かできるのではと「何か」に突き動かされる思いで、行政の防災対策課、男女共同参画推進課の支援も願って「みんな(男女)でできる防災実行委員会」を立ち上げました。

先の自然災害等で被災された方々や多くの研究者等が、「平常時にできないことは非常時にはなおさらできない」と指摘されています。今回の取組を機に、防災を切り口として男女共同参画の視点に基づいた主体的な関わりの大切さを発信したいと話し合いました。そこから「ダンジョキョウドウサンカク」に関心を寄せてこなかった市民へ啓発ができるのではと考え、まずは市民の巻き込みを目指しました。



## 私たちが行ったこと

最初から「若い女性リーダー発掘、養成!」としては尻込みされてしまいます。そこは、抑え気味にしました。しかし、防災を学ぶことで、男女共同参画を学び、地域を知り、地域とのつながりにも気づくこと、そこからリーダーが生まれることも期待されます。また、広く市民に男女共同

参画の視点での防災講座を受講してもらうために、公開講座と塾生限定講座の2部構成にしたことで、塾生には気づきや学びが深まったと感じます。最後の講座ワークで「宣言シート」に記入し、皆の前で発表したことで「有言実行」されていくと信じています。



## 成果と今後について

元気塾を機に、思いだけでなく、自主防災組織立ち上げの一步を踏み出した地域や、行政に働きかけ避難所変更や業務の中で防災ミニ講座を設定した地域もあります。また、学校保護者会での取り組みも動きだしました。

番外の成果として、朝倉の被災地でのフィールドワークが実施できました。同じ元気塾で頑張っている市民団体との交流を図り、次世代継承が難しいとの共通した課題に頭を悩ませていることも分かりました。この課題からは、「私であれば頑張ります」を合言葉に諦めないで、私たち自らが歩を進めることで、次世代へバトンタッチして行かなければとの思いを強くさせられました。元気塾は卒業しましたが、防災や「地域づくり」に卒業はありません。

今後も地域(朝倉も含めて)とのつながりを大事に男女共同参画の視点に基づいた取組を広げて行きたいと願っています!



# 実践!命を守る 防災力講座

主催：「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」あさくら元気塾実行委員会  
(特定非営利活動法人 住みよいあさくらをめざす風おこしの会・朝倉市・筑前町・東峰村)

## 私たちが目指したこと

私たちは3市町村どの自治体も「若い人や女性が意見を発言する機会が少なく、男女共同参画の視点が見受けられにくい」と感じていました。そんな中での九州北部豪雨災害。未曾有の災害を目の当たりにし言い知れぬ危機感を覚えました。そこで私たちは何をすべきなのか、何ができるのかを自らに問い、そして、被災経験を踏まえた新たな防災・減災に向けた取り組みをしていこうという結論に至りました。それは「平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる」これを知ってもらい、今後の復興・地域再生を図っていこうというねらいです。おりしも筑前町では災害への危機感から防災への関心が高まっており、今、あさくらでは最も必要なテーマでした。



## 私たちが行ったこと

それは～実態を知り 課題を考え 防災力を高めよう～です。まずは学術的な見地から災害の実態を学び、地域の地質的な特徴や弱点を知り、次に被災体験者の話を聴き自分事として認識し、被災の有無にかかわらず思いを共有しました。そして、実際に大災害に直面した場合の、性別や立場ごとに異なる災害時の困難や被災の違い、避難所のあり方等を学び、国の「防災基本計画」に男女共同参画関連記述があることも学びました。また救援が来ない3日間を生き抜くサバイバル技術体験も楽しみながら学びました。最終回は、自助・共助・公助の観点から自主防災組織の現状を知り、新たな防災・減災に向けた課題と対策を話し合いました。



## 成果と今後について

今回の学びをひとり一人がどう活かしていくか、地域の中で知恵と力をどう発信していくか。大事なことは気づき、知識にする、行動する。それを全員で共有する。その繰り返しだということです。違いを恐れずに様々な立場から発言することは、より良い地域づくりにつながるはずです。これを機会に「地域活動をやりたい・やるべきだ」「伝えなければもったいない・どうにかして伝えていく」「自治会組織に反映させていく」等の声が上がって来ました。

42名の皆さんと新たなつながりが出来たことを大変嬉しく思います。自助・共助・公助の視点は、防災だけではなく日常の生活にあります。今後は、皆さんのひとり一人の力を活かし、広げ、地域づくりへの発信を続けていきます。



# 那珂川市-ichi-つくります！

主催：那珂川「市-ichi-」実行委員会  
(connect・那珂川市・那珂川市男女共同参画推進センター「あいなか」)

## 私たちが目指したこと

近年、インターネットやブログ、SNSの発達によりハンドメイド販売や自宅サロンなどに挑戦する女性が増えてきました。しかし、雑貨イベント「connect」を運営していく中で技術などを取得する機会はあるものの、運営や作品販売をする方法を学ぶ機会は少なく、せつかく挑戦したにもかかわらず辞めていく人が多いということを感じていたと同時に、那珂川は昨年10月に「市」になるタイミングで勢いもあり、人口も増えていますが平日の日中というママが自由になる時間、子供と遊びに行く時間を楽しめる場所、遊びに行く場所が少ないのではと感じていました。

リニューアルした博多南駅前ビルを拠点に活動する女性が増えればそこに人が集まり、地域の活性化、子育て世代の楽しめる場所の充実につながっていくと思い、それらの課題を解消するために那珂川市元気塾は那珂川市を軸に活動する女性の育成、団体の育成を目的としました。



## 私たちが行ったこと

まずは女性が活動していくこと、活躍していくことの後押し、那珂川市の魅力や町おこしについての学びの場を設けました。第2回、3回、4回目は自分の目標を設定する「わたしの将来像」、自分の強みを活かした「ブランドづくり」、相手に魅力が伝わる「見せ方・伝え方」を学びました。その学びを活かして開催した「おためしマルシェ」。12月に開催するために「広報」「運営」「出展者」のグループに分かれて第2回講座から並行して準備しました。チラシ制作やチラシ配り、SNSを使った告知、当日の配置図などすべて塾生で行いました。実際にマルシェを開催することで運営方法や当日の動き、ディスプレイの方法など



改めて学びました。お客様に来ていただいたことが塾生の自信となり、今後に繋がる場になったと実感しています。第5回は今後活動するに当たって必ず必要な税務・法務の講座を開催しました。専門家に直接話が聞ける貴重な時間でした。最終回はこれから那珂川市でやりたい未来宣言ということで「那珂川の〇〇になる宣言」と「妄想企画会議」を行いました。塾生がそれぞれの特技を活かし「那珂川市でどんなことができるだろう」と、とても楽しく生き生きと企画していた姿が印象的でした。この「妄想企画会議」で出たアイデアが実際に行えるか打ち合わせも始まっているようです。

## 成果と今後について

講座を終え、塾生だけでイベント開催、定期開催のマルシェの立ち上げやイベントの出展などが決まっています。早速、元気塾での学びや繋がった輪が活かされると実感しています。SNSの活動も続いており、これからも塾生が関わるイベント情報が発信されていくと思います。

「connect」でもフォローアップ講座や「connect」のイベント出展などを通して今後も活動していく女性を応援していきます。





主催：「うみ☆ガールズ」実行委員会  
(うみ☆ガールズ・宇美町)

## 私たちが目指したこと

「宇美町にはなにもない」「どうせ宇美町」…地元出身者が多いにもかかわらず、町に活気がないように感じていました。また、何かやりたいと思っている女性が、どうすればいいのかわからないという声も聞こえていました。宇美町は2020年に町制施行100周年を迎えます。そこで実行委員は、「宇美愛を持って女性が活躍できる場をつくりたい!」「私たちが活性化を促せる人材を育てよう!」そして、宇美愛を持って輝いている女性が住む町は、そこで育つ子供へも宇美愛が受け継がれ、次の世代へと100年先までつながっていくだろうと考えました。

この講座を通して町の新しい魅力を知って、イベントを企画したり運営したりする力をつける。そして実際にやってみることで「自分たちにもできた!」から「自分たちにもできる!」と、活躍できる場所を自分たちで考え作り出せる人材を育てることを目標としました。



## 私たちが行ったこと

具体的にはチラシ作成やSNSのコツなどを学ぶことで、イベントの企画や広報のやり方を身につけてもらいました。また、宇美町を実際に歩いて新しい魅力を見つけるフィールドワークでは、実行委員も知らなかった新しい発見の連続で塾生の発見や想像力に驚かされました。仲間づくりにも力を入れたかったので、講座の他に塾生と山登りをしたり、森で火を起こしてコーヒーを飲んだり…自由に話ができる場所も作りました。塾生同士、また実行委員とも仲良くなることができ、価値のあるものでした。

この講座での集大成ともいえる2月9日の「夜の図書館カフェ」では、約2000人もの来場者があり、アンケートでは、参加者の96%を満足させる結果となりました。宇美町では今までに前例がない新しいイベントの形だったので、これからも継続していきたいと考えています。



## 成果と今後について

人材育成の成果は見えにくいものですが、20名の塾生が今後も「うみ☆ガールズ」として活動していくことになりました。まずは宇美町ボランティアセンターに団体登録を行い、塾生たちの「やってみよう」を形にできる活動を行っていきたくと考えています。また、2月15日の閉講式では実行委員が知らないうちに塾生が主体となってサプライズセレモニーがありました!本当に嬉しかったです。

このようなサプライズを塾生だけで計画し、実行できるほど塾生同士の絆も深まっていたのかと感動しました。今後は実行委員と塾生が、仲間として一緒に活動していけることが楽しみです。



# 「女性による元気な地域づくり応援講座事業(通称:元気塾)」とは…

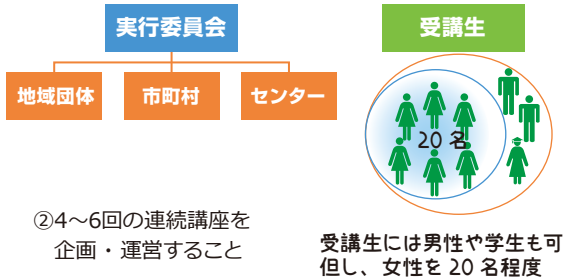
福岡県男女共同参画センター「あすばる」が、女性の視点・意見を活かした地域活動を促進し、地域での女性の活躍促進につなげるため平成28年度から実施している事業です。

平成30年度も、地域の女性団体と市町村の男女共同参画センター及び市町村が中心となり、それぞれの地域が抱える課題を解決するため、地域の女性を対象に、「現状を分析し課題を抽出する力」、「調整力」、「情報発信力」など地域活動の実践力を高める連続講座を企画・実施しました。

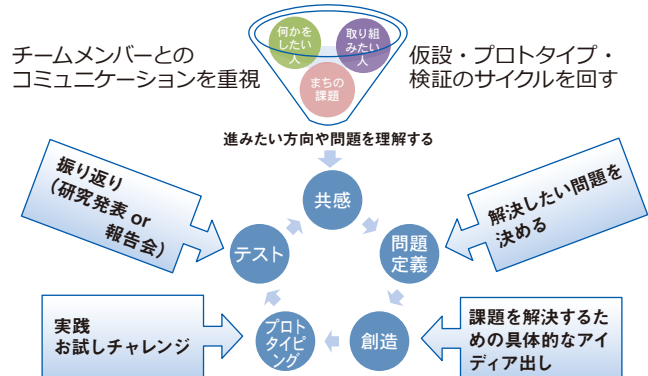
あすばるの中長期指針「あすばる2020」によって、これまで直接県民に働きかけていた事業方式から、県民と日常的に接点のある組織や団体などの推進主体に働きかける方式に変更し、「つなげる」「支える」「盛り上げる」のあすばるが果たす3つの役割に基づいて取組みを進めています。

## あすばるの役割 「つなげる」 事業の特徴 募集要件

- ① 実行委員会形式とする
- ③ 受講生は、女性20名程度



## デザイン思考の要素 イノベーションの創出



## これまで実施した地域

### 平成28年度

・久留米市・飯塚市・春日市・糸島市・築上町

### 平成29年度

・直方市・田川市・広川町・大野城市・志免町・苅田町

8つの元気塾の詳細は  
「あすばるHP」で公開中!

あすばる



## 元気塾報告会

～まちの課題解決に挑んだ女性たち～

平成31年2月22日(金)、クローバープラザにおいて開催した報告会には、地域団体、学生、行政職員など100名を超える方々にご参加いただきました。

報告会では、今年度の元気塾の実行委員がそれぞれの取組事例の発表を行った後、3つの分科会に分かれて活発な意見交換を行いました。

女性の視点で地域課題に取り組むことで、「ひと」が育ち「まち」の活性化に繋がることが改めてわかった報告会でした。

